

令和7年度 「税に関する高校生の作文」
福岡市東区長賞 受賞作品

福岡工業大学附属城東高等学校

2年 栗田 耕太郎 さん

題名 『未来へのチケット』

2025年、大阪・関西万博への期待が、世間の間でも高まっています。

テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。

世界が驚くような技術や、アイデアが集まり、私たちはかつてない未来体験に胸を躍らせることでしょう。

でも、ある日、ふと疑問が頭をよぎりました。

この夢のような万博を、いったい誰が支えているのだろうか？
その答えが「税金」と知った時、私は「税」という字の持つ重みと可能性を初めて真剣に考えるようになったのです。

確かに、万博の開催には莫大なお金がかかります。会場を建設し、世界各国の人々を迎え入れ、安全を守るためには、数千億円という単位の資金が必要だと言われています。

このお金の大部分は、私たちの家族が日々納めている税金から賄われています。

「自分が行くかどうかともわからないイベントに、なぜ税金が使われるの？」と一瞬思ってしまった。

しかし、調べていくうちに、万博への投資は、単なる「お祭り」のためではないことに気がきました。

それは、未来の社会そのものをつくるための、大胆な「先行

投資」なのです。

そのことを物語るのが、55年前の1970年に開催された大阪万博です。

このときの社会も、未来への希望と不安の中で、この大きなプロジェクトに税金を投じました。

その結果、何が起ったでしょうか。

万博の跡地は「万博記念公園」として生まれ変わり今も多くの市民の憩いの場となっています。

そして何より、万博開催に向けて整備された交通網、新幹線やモノレールは、その後の関西経済の大動脈となり、私たちの生活の利便性を飛躍的に高めました。

半世紀以上前の人々が未来への投資として支えた税金が、確実に私たちの「今」を形作っているのです。

2025年万博も全く同じです。

会場で披露されるカーボンニュートラルの技術や、高度な医療システム、人と共生するロボットたちは、万博を終えたらそこで終わりではありません。それらは社会実装され、十年後、二十年後のあたりまえの風景をつくっていくのです。

万博は、未来を早送りで見せてくれる「窓」です。

そして、その「窓」を設置する費用を社会全体で分かち合う、それが税金の持つ「未来を共創する力」なのだと私は考えます。

私たちが納める税は教科書や給食、警察や消防といった身近なサービスだけでなく、こうした壮大な未来構想にも使われています。

それは、前の世代から私たちへと託されたバトンであり、今度は私たちが走って、次の世代へと渡していくものなのです。